

## 令和2年度岩手県献血推進協議会 会議録

### 1 日時

令和3年1月15日（金） 10:00～11:00

### 2 場所

エスポワールいわて 大ホール

### 3 出席者

#### (1) 委員

宮田 剛 会長、鈴木 啓二郎 委員、小原 紀彰 委員（内宮 明俊 委員代理）、  
金澤 貴子 委員、平野 直 委員、増田 友之 委員、橋本 良隆 委員、  
宗形 金吉 委員、谷藤 学 委員、鈴木 浩之 委員、浅沼 千明 委員、  
佐藤 尚 委員、大坊 邦子 委員、小林 忠明 委員、藤原 哲 委員、  
若槻 修 委員、畑山 篤 委員、一戸 俊行 委員、阿部 卓司 委員、  
松尾 尚人 委員、松原 悠 委員（仲條 結 委員代理）、  
熊谷 泰樹 委員（佐藤 了一 委員代理）、佐藤 博 委員（清川 義彦 委員代理）  
（欠席委員：阿部 圭次 副会長、鈴木 健二 委員、本田 敏秋 委員、  
梶屋 伸夫 委員、松田 恵美子 委員、菅原 情子 委員、  
山本 豊 委員、佐々木 淳 委員）

#### (2) 事務局

保健福祉部長 野原 勝、健康国保課総括課長 福士 昭  
技術主幹兼薬務担当課長 千葉 和久、主査 近藤 誠一、  
技師 小田 哲也、技師 千葉 紀蘭理  
岩手県赤十字血液センター事業部長 梅野 真和、  
献血推進課長 佐藤 泉悦、推進係長 米田 佑介

### 4 会議の内容

#### (1) 開会

#### (2) あいさつ（野原保健福祉部長）

#### (3) 議事

ア 会長選出

イ 報告

令和2年度献血推進事業等の概要について（資料No.1 千葉技師、佐藤献血推進課長が説明）

[質疑応答]

#### Q1（橋本委員）

血小板製剤の需給状況について、不足分は東北ブロック内で調整と説明があったが、ブロック内調整の仕組みについて教えてほしい。

A1（血液センター 佐藤課長）

自県で使用する血液は自県で確保するのが基本だが、岩手県が少ないときは他県から岩手県へ、他県が不足しているときには岩手県から他県へと、東北ブロック内での協力体制の下で、血液製剤の供給を支障なく行うことができるよう、需給調整している。

Q2（一戸委員）

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を考えると、10月以降の状況について、気になるところ。献血者数が極端に減少しているのか等、傾向を知りたい。

A2（血液センター 佐藤課長）

岩手県では7月に初めて感染者が確認され、それ以降献血者の足が遠のいたが、その後の報道の恩恵もあり上向きとなった。また、11月にクラスターが確認されて以降、献血者数は再び落ち込んだ。10月以降も、患者様に迷惑がかかる状況、供給が滞る状況には陥ってはいないが、献血者の確保には非常に苦労している状況が続いている。今年度の献血者数を昨年度と比較すると、12月までではほぼ100%に達しているが、現在、供給が非常に伸びていることから在庫が徐々に逼迫してきている。

ウ 協議

- ・令和3年度献血目標について（資料No.2 佐藤献血推進課長が説明）
  - ・令和3年度岩手県献血推進計画について（資料No.3 千葉技師が説明）
- 2件とも案のとおり承認された。

[質疑応答]

Q1（橋本委員）

複数回献血者の確保の強化について、献血Web会員サービス「ラブラッド」の会員数は令和2年9月現在9,887人とある。当県の会員数について、実績の推移、傾向がわかれば教えてほしい。

A1（血液センター 佐藤課長）

ラブラッドの会員数について、今年度は300人/月程度、会員数が増加している。ラブラッド会員でない方に対しては、献血終了後にチラシを配布し、新規会員になっていただけるよう働きかけを行っている。

Q2（橋本委員）

災害時等における献血の確保について、新型コロナウイルス等感染症の感染拡大防止のための環境整備を行うとあるが、具体的にどのような整備を行うのか、主要なところを教えてほしい。

A2（血液センター 佐藤課長）

献血ルームにおいては、飛沫防止のビニールカーテンの設置や、サーマルカメラ導入等により、感染拡大防止に努めたい。